NEW STYLE ONE MAKE RALLY

Racing Development TRD Vitz challenge

2009/5/24 Round 2 in 高 山

全日本のラリーコースにチャレンジ!!

新緑の飛騨高山に、ヴィッツの「花」が咲く!?

2009年5月24日(日)、初戦の中部ラウンドから約1ヵ月半のインターバルを於いて、『TRDヴィッツチャレンジ Rd.2 in 高山』が開催された。新緑萌ゆる飛騨高山に集まったエントラントは48台! 景況が悪い中においてのこのエントリー台数に、参加者たちのヴィッツチャレンジへの情熱の高さを垣間見る。まさに、ヴィッツチャレンジの人気を物語る参加台数であった。

例年はスキー場の駐車場に設定していたスタート会場は、街中から程近くの丘に位置する「飛騨エアポート」へと移動し、広大な敷地からのスタートとなった。セスナ機の待機場所となる路面に描かれた丸いラインに沿って、円形に並べられた色とりどりのヴィッツラリーカーがギャラリーの目を引く。主催者のユニークなアイデアに、参加者たちも楽しんでいる様子であった。

ドライバーズブリーフィング。これから始まるラリーに期待の表情。

RALLY DATA

Round.2 in 高 山

■ 主催	松本カースポーツクラブ(MCSC)
■ 開催日	2009年5月24日(日)
■ 開催エリア	岐阜県内
■ スタート会場	飛騨エアパーク
■ セレモニアルスタート	飛騨エアパーク
■ サービスパーク	飛騨エアパーク
■ ゴール会場	シャレー中西
■ セクション数	2
■ SS本数	6本
■ SSトータル距離	16.4km
■ 総走行距離	約140km
■ 参加台数	48台 Class 1 10台 Class 2 8台 Class 3 13台 Class 4 15台 Class 5 2台
■ 完走台数	47台 (リタイア1台)
■ 取材媒体	株式会社 芸文社 ブレイドライブ (モータースポーツ誌) 株式会社 三栄書房 WRC PLUS (モータースポーツ誌) 東京中日新聞社 東京中日スポーツ (日刊スポーツ紙) 株式会社 三推社 ベストカー (一般自動車誌)

高山ラウンドの醍醐味は、例年秋に開催される全日本ラリー選手権「ラリーハイランドマスターズ」のSSを走行することにあろう。今年も、ダムサイドのグラベル林道と、2車線はたっぷりある大規模林道（ターマック）を使用した。
もちろん全日本ラリーとは違い、SSは安全な上りのみで使用されることになるが、このコースを走ることができるのはヴィッツチャレンジならではないだろうか!

00（ゼロゼロ）カーは、全日本ラリー選手権JN1.5クラスでヴィッツRSを駆り、今シーズンは現在シリーズトップ快走中の天野／井上選手が務めた。

篠塚健次郎氏のご子息、篠塚健太選手がヴィッツチャレンジに初参加。 健次郎氏より参加者たちに激励のコメント。ヴィッツチャレンジを終始見守った。

クラス構成も1500ccのクラスである「クラス1」「クラス2」が10台、8台と増えてきており、今年から設定された学生クラス「クラス5」も本ラウンドから成立し、すべてのクラスでコンペティションを行えることとなった。

レキは雨、スタートは曇り、セクション1（午前）は晴れ、セクション2（午後）では一時大雨という、めまぐるしく変化するコースコンディションの中、ヴィッツチャレンジャーは全日本コースを走りきった。 競技終了後の競技長からの所感にもあったように、コースセッティングからコンディションに至るまで、柔軟に対応していく選手たちのスキルアップには、大変目を見張るものがある。

ハードなコンディションを走りきったヴィッツラリーカーたちが次々とゴールし、表彰式会場のシャレー中西に到着する。 表彰会場となる畳張りの大広間では、ライバルを笑顔で迎え合い、寛ぎのひととき。ラリー歓談は表彰式まで続く。

主催者より本日の総評、初参加者の紹介、篠塚健次郎氏からヴィッツチャレンジについてのコメントをいただいた後、今回の表彰が行われた。

Class 1
1500cc(NCP91)オープンクラス

Class 2
1500cc(NCP91)チャレンジクラス

Class 3
1000cc(SCP10)オープンクラス

Class 4
1000cc(SCP10)チャレンジクラス

Class 5
1000cc(SCP10)学生対抗クラス

特別賞

初参加選手、入賞選手以外の選手や、観戦者にも記念品を授与。

次戦「Round 3 in 蓼科」は、6月28日(日) 長野県・白樺湖周辺で開催いたします。

主　幹：TRDヴィッツチャレンジ事務局（株式会社プロクルーズ内）